

なぜ懺悔しなければなりませんか マタイ3:1~12 / 李正雨師

教会の教えの中に懺悔というものがあります。これは神様の御前で自分の罪を反省し悔いることとして、私たちキリスト教にとっては重要なことです。そして仏教でも懺悔というものがあります。仏教での懺悔は、サンスクリット語の「クシャマ(Ksama)」を翻訳したもので、仏教の儀式、布薩(ぬのさつ)と自恣(じし)を通して自分の罪を告白して直すということです。この仏教の懺悔は、キリスト教の懺悔といくつかの共通点を持っています。懺悔を通して罪を犯したことを反省し、再び罪を犯さないと決心すること。これが二つの宗教の懺悔の共通点です。しかし、他の点もあります。仏教の場合は、懺悔の後、お参りをしたり、経文を読んだりすることなど、自分が中心となって罪から離れます。しかし、キリスト教の懺悔は、自分ではなく神様が中心になります。神様に赦しを求め、神様が赦されます。人が罪の赦しのために行うことは、懺悔をする以外には何もありません。懺悔をすることも自発的なものだけではありません。神様の恵みの中で自発的にすること。これが私たちの懺悔です。それで、ルターは大教理問答で、懺悔は私たちのことと同時に神様のことだと言われます。

今日の福音書にもこの「懺悔」について書かれています。しかし、私たちが持っている聖書には、「懺悔」ではなく「悔い改め」と書かれています。ある人は、懺悔と悔い改めは違うものだと言っていますが、私は、あまり変わらないと思います。懺悔も悔い改めも、自分の過ちを悔いることであり、悔いることによって自分の人生の方向を変えることだからです。ですから、今日の福音書の「悔い改め」を「懺悔」として受け入れても構わないと思います。悔い改めも懺悔も、私たちに必要なものであり、神様が私たちに与えてくださるものだからです。今日の福音書1-2節を見てください。「そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、『悔い改めよ。天の国は近づいた』と言った。」

今日の福音書は、洗礼者ヨハネが宣べ伝えた悔い改めについての言葉です。洗礼者ヨハネは、ユダヤの荒れ野で人々に悔い改めることを促します。彼が悔い改めを促した理由は一つだけです。天国が近づいたからです。ユダヤ人の預言者たちは、皆が悔い改め、神様に向き直れば、神様がイスラエルに戻ってくださるのだと思いました。それで、すべての預言者たちは、民たちの悔い改めを求め、洗礼者ヨハネも同じだったと思います。平和なイスラエル、神様が治めるイスラエルになるためには、悔い改めなければならないと思っていたのです。さらに、洗礼者ヨハネには与えられた使命がありました。その使命は、メシアの道を整えることでした。今日の福音書3節の言葉です。「これは預言者イザヤによってこう言われている人である。『荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』』」

皆様もご存じのように、先月うちには私の母が来ました。母を迎えるために私と妻は家の中を整理して掃除し、母が泊まる2階の部屋をきれいに片付けました。母に便利のように、ティッシュと飲み物、ゴミ箱と鏡などを置いておき、部屋を温めるために電気カーペットも敷いておきました。寝具もきれいに洗濯しておき、部屋が乾燥することもあるので加湿器も設置しておきました。母が好きな食べ物と果物なども用意して冷蔵庫に入れて置きました。そして成田空港に行って母を迎えました。空港まで往復4時間くらいかかりましたが、疲れはありませんでした。母が来てくれて、さらに2週間一緒にいることができ嬉しかったのです。私と30年以上を一緒に暮らした母が来たのですが、準備を怠ることはできませんでした。もちろん、私が準備ができていなかったとしても、母は私を叱らなかつたと思います。むしろ私の状況を理解してくれたと思います。しかし、私は母を迎える準備をしたかつたし、準備するすべてのプロセスが楽しかつたです。もし皆様が私の立場であっても、私のように多くの準備をなさ

ったと思います。

私は、悔い改めというのは、こんなものだと思います。母を迎えるために家の中を整理して掃除し、空港に迎えたように、メシアを受け入れるために私たちの罪を告白し、許しを求めることです。イエス様が私たちの中にとどまることができるように、心をきれいにして迎え入れるためにいくつかの準備をするのです。今日の福音書で語っている悔い改めも、これと同じだと思います。私たちが悔い改めなければならないのは、神の怒りを免れるためだけではありません。来たるべきメシアを迎え入れるために悔い改めるのです。まるでお客さんを迎え入れるために部屋を片付けて掃除するように、メシアを迎え入れるために罪から自分をきれいにするのです。これを誤解してはいけません。教会が悔い改めを言うのは、信徒たちを脅かしたり、裁いたりするものではありません。イエス様を迎え入れるために、そして悔い改めによる許しと救いを得るために懺悔を促すのです。

今日の福音書7～8節で、洗礼者ヨハネは、ファリサイ派の人々とサドカイ派の人にこう言います。「虻の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。」この言葉は悔い改めが何なのかを教えてくれる言葉だと思います。悔い改めの目的は、単に神の怒りや罰を免れるためではありません。悔い改めのふさわしい実、すなわち悔い改めを通して許しと救いを受けることにその目的があるのです。ですから、悔い改めまたは懺悔というものは、神の贈り物だと言えるでしょう。自分の罪を告白したり認めたりして罰を免れるのではなく、神様の許しと救いが前提とされているからです。神様の赦しと救いを得ることができる道、それがまさに悔い改めなのです。それで、この悔い改めには慰めがあります。罪による恐れを持っている人々への神様の慰め、私たちのどんな罪でも許すという神様の慰めがあります。誰でも、どんな人でも、神様の御前に出てください。そして神様の慰めを受けてください。「あなたの罪を許す」と宣言される神様の言葉を聞いてください。これが悔い改めの目的、悔い改めにふさわしい実です。

ルターは、自分が悲惨で困窮していると感じたら、懺悔の場に走っていきなさいと言っています。そしてその場で私たちが愛し、私たちが許して受け入れる神様の言葉を聞きなさいと言います。なぜ懺悔しなければならないのでしょうか。私たちの罪を告白しないと罰を受けるからでしょうか。それとも、自分の罪を認め、罰を免れるためでしょうか。絶対にこのような理由で懺悔するものではありません。私たちが懺悔するのは、懺悔には神様の許しと慰めがあるからです。私たちが愛されるという神様の言葉、私たちが救ってくださるという神様の約束があるからです。それで私たちは懺悔するのであり、この懺悔を通して私たちはイエス様を迎え入れる準備をしているのです。

今日の福音書の最後の節である12節には、こう書かれています。「麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」この言葉の意味は何でしょうか。悔い改めた人は倉に入らせ、悔い改めなかった人は、火で焼き払うということでしょうか。もちろんこのように解釈する人もいないわけではないでしょう。しかし、私はそう思いません。イエス様は殻、つまり私たちの古い人と過ちと罪を焼き払われ、新たな人になった私たちを倉に入れてくださるのです。そしてこのために必ず私たちのところに来られるのです。今、私たちは、主の再臨を待ち望む待降節を過ごしています。この期間の私たちの懺悔は、待降節をより豊かにするのだと思います。ですから、私たちは神様を賛美し、感謝を捧げなければなりません。神様が懺悔の喜びを悟らせてくださったからです。懺悔を通した神様の赦しと慰めが皆様にありますように。主が皆様を懺悔の場に導いてくださいますように、主の御名によって祈ります。アーメン